

# (公社)全日本アーチェリー連盟の新資格制度の概要

- 1.指導者資格制度について
- 2.資格の種類と内容について
- 3.指導者養成プログラム(更新研修とリフレッシュ研修)
- 4.受講条件・有効期限
- 5.講習時間数・料金
- 6.資格の義務化の詳細
- 7.指導者育成委員会について

## 1.指導者資格制度について

(公社)全日本アーチェリー連盟指導者育成委員会(下記7の項目のとおり指導者育成委員会を設ける)は、アーチェリー指導者の資質および指導力の向上を図り、アーチェリー競技の普及および振興を促進するため、公認アーチェリー指導者資格を制定する。都道府県ア協(連)、及びその傘下の市区町村ア協(連)、学校部活動(全日学連を含む)及び地域スポーツクラブ(アーチェリー教室を含む)においては、公認アーチェリー指導者を必ず配置し、本資格制度及び、(公社)全日本アーチェリー連盟並びに傘下の組織の諸規程に基づく管理監督、指導等を行うものとする。ただし、有資格指導者の人数は、その組織の必要度に委ねるところとする。または、出場する公認競技会の規定に依り必要な指導者を配置するものとする。

### 目的

1. 普及・強化の基盤作り
2. コーチの資質の向上と人数の増加
3. 審判資格者の養成と指導者登録者の増加
4. 新たな指導者の発掘と既存指導者の活性化
5. リスクマネジメント意識の向上
6. ナショナルチームコーチの組織的・計画的な育成

## 2.資格の種類と内容について(2023年3月にJSPO承認済み)

(公社)全日本アーチェリー連盟では公認アーチェリー指導者資格として以下の5種類の資格を制定する。

資格名	養成目的・役割・受講資格	
公認アーチェリー スタートコーチ	養成目的	初めてのコーチとして、必要最低限の知識・技能に基づき、アーチェリー競技の上位資格者と協力し、安全で効果的な活動を提供するコーチングアシスタントとして活躍できる指導者を養成する。
	役割	都道府県ア協(連)、及びその傘下の市区町村ア協(連)、学校部活動(全日学連を含む)及び地域スポーツクラブ・スポーツ少年団において、上位資格者と協力して安全で効果的な活動を提供することである。
	受講条件	受講年度の4月1日現在満18歳以上の者で、全ア連会員登録者であること。都道府県ア協(連)、及びその傘下の市区町村ア協(連)、学校部活動(全日学連を含む)及び地域スポーツクラブ・スポーツ少年団において、アーチェリー競技の指導にあたっている者。又はこれから指導者になろうとする者。
公認アーチェリー コーチ1	養成目的	都道府県ア協(連)、及びその傘下の市区町村ア協(連)、学校部活動(全日学連を含む)及び地域スポーツクラブ・スポーツ少年団において、コーチングスタッフとして、基礎的な知識・技能(3級審判資格取得)に基づき、安全で効果的な活動を提供できる指導者を養成する。
	役割	対象者の発育・発達に応じ様々な運動経験を通し、スポーツに必要な身体作りと動き作り、あわせて基礎的なアーチェリーの技術の指導にあたる。都道府県協会(連盟)傘下のチームの監督・コーチとして選手の育成指導にあたる。
	受講条件	受講年度の4月1日現在満20歳以上で、アーチェリー経験5年以上の全ア連会員登録者であること。
公認アーチェリー コーチ2	養成目的	都道府県ア協(連)、及びその傘下の市区町村ア協(連)、学校部活動(全日学連を含む)及び地域スポーツクラブ・スポーツ少年団において、監督やヘッドコーチ等の責任者として、安全で効果的な活動を提供するとともに、指導計画を構築・実行・評価し監督する事と併せて、コーチ間の関わり及び成長を支援できる指導者を養成する。
	役割	年齢・競技レベルに応じた指導にあたりるとともに、都道府県ア協(連)、及びその傘下の市区町村ア協(連)、学校部活動(全日学連を含む)及び地域スポーツクラブ・スポーツ少年団等が実施する各種事業の立案・運営に参画する。都道府県協会(連盟)傘下のチームの監督・コーチとしてチームをまとめ、競技者が能力を発揮できるように指導にあたる。
	受講条件	受講年度の4月1日現在満22歳以上で、アーチェリー経験5年以上の全ア連会員登録者であること。
公認アーチェリー コーチ3	養成目的	主に地区ブロック、及び全国大会レベルで活躍できる選手の育成、及び競技力向上、選手強化を目的とした組織内でコーチ、監督を務めることが可能な指導者を養成する。
	役割	都道府県ア協(連)、及び学校部活動(全日学連を含む)等での競技力向上、選手強化の場において、競技者育成プログラムに基づき、都道府県を代表する選手の監督・コーチとして指導にあたる。また、各種講習会において強化育成について指導的立場になる。

	受講条件	受講年度の4月1日現在満25歳以上で、アーチェリー経験10年以上の者で全ア連会員登録者であること。都道府県協会(連盟)が推薦し、全ア連が認める者。
公認アーチェリー コーチ4	養成目的	国際大会で活躍が期待できる日本を代表するトップレベルの選手、或いは全ア連が組織するナショナルチーム、地域強化拠点、エリートアカデミー等での競技力向上を目的としたコーチングを行うことができる指導者を養成する。
	役割	日本を代表するトップレベルの選手の育成・強化にあたり、国際的な視野を持ち、全ア連の強化スタッフとして競技力向上策の研究・開発に参画し、また国際的な最新情報の収集・分析の役割を担い、全国の強化活動の中心として活動する。また、各種講習会において強化育成について指導的立場になる。
	受講条件	受講年度の4月1日現在満28歳以上で、アーチェリー経験10年以上の者で全ア連会員登録者であること。都道府県協会(連盟)が推薦し、全ア連が認める者。全国大会以上の大会において、団体ベスト4のチームの指導歴を有する者。

### 3.指導者養成プログラムについて(2023年4月より)

指導者養成プログラムは「指導者としての技能を付与する資格認定講習」と「更新研修」と「任意参加のリフレッシュ研修」の2本柱とする。

#### ◆資格認定講習

各資格認定講習会は、都道府県アーチェリー協会(連盟)あるいは(公社)全日本アーチェリー連盟の主管で開催する。尚、(公社)全日本アーチェリー連盟指導者育成委員会は各資格認定講習会に指導・助言を行う。

#### ◆更新研修とリフレッシュ研修

更新研修を受講することで資格の有効期限が延長される。更新研修とは、都道府県スポーツ協会、(公財)日本スポーツ協会、(公社)全日本アーチェリー連盟が主催する研修会等とする。また、都道府県ア協会(連盟)・全日本学生連盟・全国高体連アーチェリー専門部が事前に(公社)全日本アーチェリー連盟に申請し認められた研修会も更新研修とする。但し、公認アーチェリーコーチ3は2年に1回、公認アーチェリーコーチ4は1年に1回、(公社)全日本アーチェリー連盟強化部が主管するリフレッシュ研修に任意で参加できる。

#### 4.受講条件・資格の有効期限

アーチェリー指導者資格認定講習の受講にはそれぞれ条件を定めている。また、資格取得後も有効期限内に更新研修に1度も参加しない場合は資格が失効する。

資格名	受講条件	有効期限	更新研修	リフレッシュ研修
スタートコーチ	※受講年度の4月1日現在 満18歳以上	4年間	4年に1回 ※全ア連登録者とする ことを検討中	不要
コーチ1	※受講年度の4月1日現在 満20歳以上で5年以上の全 ア連登録者	4年間	4年に1回 ※全ア連登録者とする ことを検討中	不要
コーチ2	※受講年度の4月1日現在 満22歳以上で5年以上の全 ア連登録者	4年間	4年に1回 ※全ア連登録者とする ことを検討中	不要
コーチ3	※受講年度の4月1日現在 満25歳以上で10年以上の 全ア連登録者 都道府県協会 (連盟)が推薦し、全ア連が認 める者。	4年間	4年に1回 ※全ア連登録者とする	2年に1回(任意) (全ア連強化部主管研修) ※全ア連登録者
コーチ4	※受講年度の4月1日現在 満28歳以上で10年以上の 全ア連登録者、都道府県協会 (連盟)が推薦し、全ア連が認 める者。全国大会以上の大会 において、団体ベスト4のチー ムの指導歴を有する者。	4年間	4年に1回 ※全ア連登録者とする	1年に1回(任意) (全ア連強化部主管研修) ※全ア連登録者

#### ※復活登録制度

「未登録」・「未更新」により保留期間を超過した場合は、登録する権利が「無効」となるが、「無効」の場合は 資格毎に日本スポーツ協会又は全ア連の定める復活登録要件を満たすことにより、登録する権利が与えられ「復活登録」の対象となる。復活登録要件とは、①全ア連の会員登録者である者、②「復活登録申請書 兼 申請要件調査書」が全ア連に提出され、指導者育成委員会がこれを認めた者、③復活登録申請を過去に使っていない者とする。

(※公益財団法人 日本 スポーツ 協会公認スポーツ指導者登録規程による)

## 5.講習時間数と料金

資格名	時間数	集合	受講料 上段JSPO 下段PF・NF	登録料 (初年度)
スタートコーチ	共通科目 15 時間(うち 3.5 時間集合講習) 専門科目 4 時間(4 時間集合講習)	7.5 時間	5,000 円 (PF・NF)	16,300 円 (JSPO)
コーチ1	共通科目 I 45 時間 専門科目 20 時間(20 時間集合講習)	20 時間	18,700 円 (JSPO) 15,400 円	20,300 円 (JSPO含む)
コーチ2	共通科目 II 135 時間 専門科目 40 時間(40 時間集合講習)	40 時間	17,600 円 (JSPO) 11,000 円	23,300 円 (JSPO含む)
コーチ3	共通科目 III 150 時間 専門科目 60 時間(60 時間集合講習)	60 時間	22,000 円 (JSPO) 11,000 円	25,300 円 (JSPO含む)
コーチ4	共通科目 IV 151 時間以上 専門科目 80 時間(80 時間集合講習)	80 時間	30,800 円 (JSPO) 17,600 円	33,300 円 (JSPO含む)

※時間や受講料は変更になる可能性もある。

※受講料には交通費・宿泊費・資料代は含まれない。

※コーチ2・コーチ3よりコーチ1の受講料が高い理由は、日本スポーツ協会の規定によるもの。

### 資格別料金比較表

資格名	資格別登録料 現行	資格別登録料 改定	専門科目 受講料	共通科目 受講料	JSPO登録料 (初年度4年 間)	更新料 4年に1回
スタートコー チ		<u>3,000 円</u>	5,000 円		13,300 円	<u>13,000 円</u>
コーチ1	5,000 円→	<u>7,000 円</u>	15,400 円	18,700 円	13,300 円	<u>17,000 円</u>
コーチ2	5,000 円→	<u>10,000 円</u>	11,000 円	17,600 円	13,300 円	<u>20,000 円</u>
コーチ3	5,000 円→	<u>12,000 円</u>	11,000 円	22,000 円	13,300 円	<u>22,000 円</u>
コーチ4		<u>20,000 円</u>	17,600 円	30,800 円	13,300 円	<u>30,000 円</u>

※更新料金

## 6.資格の義務化の詳細について(2030年4月1日完全実施予定) 別紙参照「資格義務化計画」

1.資格登録者配置の義務 ※以下の公認スタートコーチとはスタートコーチ(教員免許状所持者)及びアーチェリースタートコーチである。

都道府県ア協(連)、及び市区町村ア協(連)、学校部活(高体連・学連)及び地域スポーツクラブ(アーチェリー教室を含む)においては、(公財)日本スポーツ協会公認資格(公認スタートコーチ以上)を保有する指導者を1名以上置かなければならない。《2030年度迄には実施予定》

### 2.大会出場時の資格登録者配置の義務

大会に参加する際、監督・コーチが帯同する場合、大会規定に定められた指導者資格を保有する指導者でなければならない。

- 1) 地区協会(連盟)及び都道府県協会(連盟)主催の大会:出場選手の監督及びコーチは公認スタートコーチ以上の資格保有者を帯同させることを原則とする。《2030年度実施予定》
- 2) 全日本GAカップ大会、小中学生選手権大会:出場選手の監督及びコーチは公認スタートコーチ以上の資格保有者を帯同させることを原則とする。《2028年度実施予定》
- 3) 全日本選手権(ターゲット・室内・フィールド):出場選手の監督及びコーチは、公認アーチェリーコーチ1以上の資格保有者を帯同させることを原則とするが、大会規定や大会要項等にコーチ名の例外規定が示されているときはこの限りではない。《2025年度実施予定》
- 4) 選考会(Nチーム、海外試合選考会):出場選手の監督及びコーチは、公認アーチェリーコーチ2以上の資格保有者を帯同させることを原則とするが、大会規定や大会要項等にコーチ名の例外規定が示されているときはこの限りではない。《2025年度実施予定》
- 5) 全日本学生連盟・全国高体連の主催大会:出場選手チームの監督及びコーチは、公認スタートコーチ以上の資格保有者を帯同させることを原則とする。《2030年度実施予定》
- 6) 国民スポーツ大会に出場する都道府県代表チームの監督は、公認アーチェリーコーチ1以上の有資格であること。帯同コーチについても公認アーチェリースタートコーチ以上の資格保有者でなければならない。《2030年度実施予定》

### 3.日本代表チーム等の指導者

1)日本代表チームの監督及びコーチは、公認アーチェリーコーチ4または公認アーチェリーコーチ3の資格保有者でなければならない。

※指導者の育成、選考については(公社)全日本アーチェリー連盟内の指導者育成委員会が指導・助言する。

### 7. 指導者育成委員会について(2025年4月1日組織完成予定) 別紙参照「資格義務化計画」

#### 1.組織の目的

アーチェリー競技の健全な普及・発展と競技力向上を目指して、日本スポーツ協会公認スポーツ指導者に基づき、指導者養成事業を展開する。

公認スポーツ指導者資格を取得することによって、コーチに必要な知識・能力等を身に付け、プレーヤーにとって安心、安全な環境を構築すること、アーチェリーをはじめとしたスポーツの楽しさを広げていくこと、さらには人間力・競技力の向上に寄与することを目的とする。組織的に計画的に指導者を育成することで、常に世界に通用する指導者の育成と選手の育成を視野に入れた広いビジョンを持ち、幼い頃から正しい基本(ファンダメンタル)の徹底と発育・発達段階に応じた一貫指導ができる指導者を養成する。

#### 2.組織の構成

1)全ア連内 普及部2名(委員長選出)、競技部2名、強化部2名 計6名

《2022年度内実施》

2)地区(9ブロック) 北海道4名、東北3名、関東4名、北信越3名、東海2名、近畿3名、中国2名、四国2名  
九州3名 計26名

《2022年度内実施》

3)都道府県 各都道府県1名、全日本学生連盟1名以上、全国高体連1名以上

《2025年度内実施予定》

4)任期期間 任期は2年とするが、各団体の推薦があれば再任を妨げない。

※地区委員と都道府県委員の重複は可